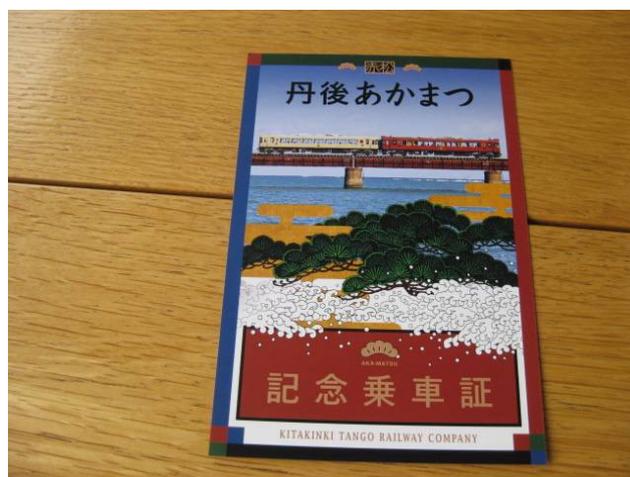


Catch the eye 2015年2月

2015/2/3
(火)

京都、網野へ

仕事で網野へ。思いがけず、丹後あかまつに乗車



2015/2/5
(木)

御苑の夕景

昨日の立春、京都へ行く用事があった。仕事が終わったのは夕方4時30分ごろ。日が少し長くなり、夕刻のいい時間。これは御苑の中を通っていかなければ。

敷きつめられた砂利の音が耳に小気味よく響く。足どりがリズムカルになり、力つよくなる。緑地の角に小さな木があった。黄色い花を咲かせている。たぶん、蠟梅。そう思いながら近づく。

たしかに蠟梅だった。京都ではまだ咲いているんだ。顔を近づいて、あの艶っぽい匂いをかぐ。苑内をいきかう人はほんのわずか。建礼門を遠く正面にみる広い苑内から東山をみる。

西日が厳かに照り、紅鬱金色にそまっていた。西の方角をみる。樹木のむこうに夕日がある。枝葉のすき間からその大きさがわかった。市内のどまんなか、平地で夕日を見られるこの状況。

京都へいきたくなるワケ一つ、ここにあり。



2015/2/12
(木)

センサー

冬型になったり、春めいたり。季節の変わりのお天気。今夜からまた寒くなるらしい。大阪城公園梅林では「冬至」が満開になったとか。2週間前はほんの一分咲きだった。来週の今日は旧暦元日、新春間近。

「わたしに10万円くれれば幸福度は上がると思うんですけどね、なんて言ったらダメですね」、と自分でツッコミをいれ、番組は音楽に切り替わった。一昨日のアフターモーニング京都。

思わず、声を出して笑ってしまった。日立製作所が発表したウェアラブルセンサーで組織の幸福度を測るというサービス。

1センサー10万円らしいと話題を締めくくればいいものを、さすが佐藤さん、ポイントをついている。他のリスナーも喝采したことでしょう。効果測定結果も紹介されていたが、今さらの感。

人間はボディーそのものが高度なセンサー。組織の一員であれば、組織内の状況は見てとれる。昔のようにボトムアップな環境なら、誰かが言いだしっぺになり、一定の妥協しながらも互いに協力したもの。

今は言いだしっぺになる人がいない。なりにくい。非正規社員が多くなり、彼らの中に問題意識をもった人がいても、それをすくいあげることができない、あるいは、それをおさえる場合もある。

自ずと改善の機会を逃す。そういう組織が多いのではないかと、観察している。だから機械やシステムを拠り所とする。一見高度のようだけど、組織力は低下している所以。

実際、このところ本当に危惧している、電車の中でもどこでも、スマホから目を離さない老若男女。年齢に関係ない。ある種の層。ほとんどの人はパズルかSNS。中にはヘッドホンをつけ、耳も一方通行。

人間の情報経路は視覚が8割、聴覚が1割。そのどちらも、ふさいでしまつて、脳の構造、思考パターンはどうなるだろうか。いろいろなものを見て、聞いて、何かを察知する能力が養われていくはずなのに。

皮膚には脳細胞と同じ細胞があるという。触覚もすてたものじゃない。見えるもの、聞くもの以外の、目に見えない空気感や微妙な感覚。そういったことからちょっとした変化や不穏な空気を読みとる。

良好で安全な人や場所を選び、自分の身を守る。そのために備えているセンサーをみすみす鈍らせることもなかろうに。そう思うけど、彼らには余計なお世話。『われわれはどこへ行くのか』。

2015/2/14
(土)

大阪城公園

梅林散歩





2015/2/19
(木)

旧暦元日

祭事などを終え、大阪城公園散歩



2015/2/20
(金)

「間」のとき

旧暦でも年が明けた。旧正二日、今日も風がつよく寒い。でも明日は一転、暖くなるらしい。梅の花は、咲いては休み、休んでは咲くという感じ。大阪城公園梅林、遅咲き『華濃玉蝶』の開花は来週か。

年初めから何かしらたて込んだ。それも一段落、新旧ともに年が明け、年度末から新年度への「間」のとき。旧年中の整理整頓をし、新年度の段取りをつけるとき。この「間」の過ごし方がけっこう大事。

『前の時間が、そのまま流れているのは、滞っているのである。切って捨てて脱落して新しく生まれるからこそ生きているのである。「間」というのは、この生きていることを確かめる時間の区切り、切断、響きなのである』と『美学入門』に書いているのを読んだ時、気づいていながら言葉では言い表せない胸の内を、目の前に広げてみせてもらった感。

書き写したノートにはわざわざ赤ペンで「非常に重要なことが書かれている」とメモしている。日付は2010年5月12日。気にとまったことはこうして記録しているが、記憶に残り、時々見返すものは限られる。

今朝新聞の切抜きを整理した。ほとんど捨てた。残しているのは、普遍的なテーマの記事。結局そういうこと。。現実に変幻、社会は時代とともに変わる。そこに埋没せず、我を生きる精神の糧こそ意味ありき。

2015/2/26 この先10年の様相
(木)

短い周期で天気が変わる。今日は雨。ひとさまの軒先に沈丁花の植木鉢、深紅の花芽が春をよぶ。阪急三番街の紀伊国屋書店、鳩居堂の絵葉書スタンドに桜がならぶ。梅は今が見頃、桜は春分の頃。

「深層学習」。今日の日経で紹介されたいた。「コンピューターが学習によって判断基準をつくり出し自ら賢くなる」。その最先端の研究分野を取り入れた人工知能をグーグルが開発したという。

人工知能の記事はまとめて別においている。20年前のインターネットの記事ほど持ち上げられてはいないが、わたしたちの生活をまた根本的に変えるはずで、その様相をみておきたい。

ケータイやインターネットのない時を知り、ある時を暮らし、その変遷を肌身で感じる者には、10年後の未来が想像を絶するほどの事態になるだろうと想像できる。

年令的に、その真っ只中にいなくても済むのはよかった。心底そう思う。人間関係のとり方、「信頼」の概念と実践のあり方、倫理観、など等、自分のものとのギャップは過去20年の比ではない、おそらく。

これから社会の第一線に出る若い人たちは大変な世の中を生きていると思うけど、本人たちはあまり感じないもの。大半はそう。ただ、いつの時代も一定の割合で、直観の才をもつ人がいる。

ものごとの本質を瞬間的に見極める能力。そういう人にとっては生きにくい社会となるのか、いやいや左右されないのか。ともあれ、そういう人の助けになるよう後ろに控えていよう。